

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和1年12月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691000188
法人名	医療法人天和会
事業所名	グループホームふれあい
所在地	鹿児島市県指宿市東方8714-3 (電話) 0993-23-1101
自己評価作成日	令和1年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者の健康管理は十分に配慮できるように法人委託医、看護師や協力医療機関との連携や、協力施設等の応援体制が整っております。

・散歩に出かけたり、イベントとして春は外出して花見を楽しまれ、地域行事に参加します。ホームでは敬老会、クリスマス会のイベントに地域のこども園や保育園の園児の方々との交流や民生員の方に催し物を披露して頂いています。

※四季を楽しみ、地域を楽しみ、生活を楽しむことができるように努めています。入居者の方が、その人らしく生活が送れるように、お一人おひとりの想いを大切にしたい個別ケアが実施できるように努めています。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和1年12月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、母体法人の医療機関(協力医療機関)が道路向かいにあり、同法人の通所リハビリセンターと同一敷地に平成29年4月に開設されている。近くには耳鼻咽喉科の医院や調剤薬局、保育所、大型店舗、コンビニ、公営住宅等があり、利便性は十分である。広い敷地には多種の草花や樹木が植えられ、利用者は周囲の田畑等からも四季を感じながら平穏な日々を過ごしている。

法人本部や隣接の通所リハビリセンターとは常に連携を密にし、ケアに関する助言や研修会、行事の合同開催、浴場や車いす対応の車の共有、災害時の対応など協力体制が築かれて、利用者や家族の安心につながっている。

開設2年目になりホームは、地域の人々にかかり周知がされてきて案内を受けて地域のイベントに参加し、ボランティアや施設見学の受け入れ、家族や友人知人の来訪、日頃の散歩や外出時の挨拶や会話など円滑な交流が図られて利用者の楽しみとなっている。災害時の地域住民との協力体制の構築も検討中である。

管理者及び職員は理念に沿って、利用者が地域や家族と触れ合いながら、その人らしく生きがいと笑顔に満ちた暮らしとなるよう日々努めている。日頃から利用者や家族の想いの把握に努め、尊厳を大切に無理強いしない利用者主体のケアに取り組んでおり、利用者及び家族との信頼関係が築かれている。

管理者は、職員との和や信頼関係、協力体制の構築が大切と考えて意見等を気軽に言い合える雰囲気づくりに努めている。出された意見や要望、個人的事情等に配慮しながら運営やサービスの質の向上を図るなど、働きやすい環境の整備に取り組んでいる。職員のスキルアップや資格取得については、法人本部も経費の助成や勤務体制に配慮するなど積極的に支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し、ミーティング時には初めに復唱し、理念の共有と実践に努めている。	開設時に作成した理念をリビングに掲示し、毎月のミーティング時には全員で唱和して周知を図っている。申し送りやミーティング、職員会議等でケアの振り返りや意見交換を行って、理念の「利用者の想いに添った笑顔のある生活」の支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事敬老会・クリスマス会等への案内をさせて頂いたり、地域の行事への声掛け頂いたりして、地域との交流が図れるよう努めている。	開設2年目となり、ホームの目的等が地域の人々に周知されてきている。公民館長や民生委員からはイベントの案内や情報が寄せられ、運動会のゲームや菜の花マラソンの応援等に参加している。ホーム主催の敬老会やクリスマス会には家族や地域住民、ボランティアの参加があり、保育園児の来訪や買い物、散歩時の挨拶、日常的に農産物を差し入れてもらうなど円滑な交流が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	家族をはじめ、地域の方々が直接相談に来られた際には、傾聴に心がけ適切な情報提供が実施できるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催してホーム内での利用者状況報告を行い、参加者の皆様からの意見を取り入れサービス向上に努めている。	会議は、家族、公民館長、民生委員、市担当職員等が参加して定期的で開催しており、ホームの現状や行事計画、活動内容、ヒヤリハット等の報告を行い、委員からは防災や利用者の健康管理に関する質問や意見、地域の情報提供があり、併せて外出やイベント時の協力についても話し合われている。職員は内容をスタッフ会議や会議録で共有しサービスの向上に繋げている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催やグループホーム連絡協議会への参加など、事業所内の困りごと等の相談を積極的に行っている。	市担当者には、電話や訪問で利用者のケアやホームの運営、各種制度の手続き等に関わる相談や意見交換を密に行い助言・指導をもらう等、協力関係を築いている。市や地区グループホーム連絡協議会主催の会合にも出席して担当者や他事業所職員と意見交換を行い、サービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、年2回は身体拘束等についての勉強会を開催している。8月に身体拘束（4点柵を夜間帯のみ）をすする状況になる。拘束期間中は週一回の検討会議を行っています。（8/14～9/19）	身体拘束に関する指針を整備し、計画的な研修や隔月毎に委員会を開催してケアの振り返りや意見交換を行い、拘束のないケアに取り組んでいる。日頃から身体拘束や高齢者虐待に関する報道を話題にし、不適切な言葉づかい等には職員間で注意し合って認識を深めている。日中は施錠は行わず、利用者の特性等に配慮しながら見守りや寄り添いに心掛けて、拘束のない自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、研修はまだ行っておらず、日々の業務のなかで、職員同士で気付いた言動については、カンファレンス時に報告、注意し合える関係作りを心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内には成年後見制度を利用されている方がおられ、入居者が安心して生活できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時は、入居者、家族に対して説明を行い、不明な点がないか確認しながら、疑問点や不安点に対する説明ができるようにしている。重要事項説明書の1部変更があり、ご家族様には送付して同意をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や玄関に要望箱を設置している。面会の折には会話の中から要望などを訪ねて、その都度職員と情報共有を行って運営に反映させている。	日頃のケアの中での対話や表情、サイン等で利用者の想いを把握し、家族からの要望は、来訪時や電話、運営推進会議、意見箱の設置等、気軽に意見を述べて貰えるように努めている。出された意見等は全員で協議して運営やサービスの向上に取り組んでおり、経過や結果は家族にも報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1日2回の申し送りのカンファレンス時に職員の報告を受けてケアに関する意見や提案を三者会議にて話し合い改善していけるようにする。	管理者は、声掛け等により気軽に話しやすい雰囲気作りに努め、毎月のミーティングや申し送り時に職員の意見や提案を把握し、また、個人的事情にも配慮しながら、働きやすい職場環境や業務の改善、職員のスキルアップに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し勤務の調整を行い、心身のバランスが保てる様に配慮している。また資格取得を促し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内にて研修会を行っている、外部研修も、お知らせして職員間でのスキルアップに努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市が主催する研修等へ積極的に参加したり、グループホーム協議会へ加入し、他施設の方々と交流をし情報交換を行い施設全体の資質向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談があった時点で、本人に面談をし話を聞いたり関係機関からも情報収集し、利用者が安心して生活が送れるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談があった時点で、家族の不安や困っている事を聞き、要望を把握して家族との信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、本人、家族の意向を確認しながら、本人、家族の意向に沿った情報提供を行えるよう地域内の情報収集に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	起床時の挨拶から始まり、就寝時の挨拶を意識して、あらゆる場面でコミュニケーションを図り、関係性が保てるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「生活状況報告書」作成し、家族へ送り近況報告したり、面会に来られた際は、本人の状況を詳しく報告し、本人の思いを伝えて本人との絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の面会も多く居室での会話を楽しまれている。家族で自宅に帰られた時にはご近所の馴染みの方に会われたりしている。理美容の利用に馴染みの理容師や美容師にホームに来ていただいている。	入所前の生活状況や日頃の会話から、馴染みの人や場を把握しており、利用者の希望に添って散歩や買い物、近隣のドライブ等に家族と協力して出かけている。計算ドリルやゲーム等の趣味も継続し、家族や友人等の来訪時はゆっくり過ごせるように配慮している。状況報告書で近況を伝え電話や手紙を取り次ぐ等、関係継続に努めている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂ホールにて利用者の方が交流できるように、全員で過ごせる場を設け利用者同士の、関係を把握してレクリエーションやテレビ鑑賞をしたり、歌を歌ったりと良い関係を築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても系列の施設を利用されておられたり、系列の病院受診されている。医師から情報を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望などの把握に努め会話の中から、その人の意向を汲み取るよう努力している。スタッフにも一人ひとりの思いをして汲み取るように指導している。	利用者の思いや意向を日頃の会話や表情、仕草等で把握し、生きがいのある、その人らしい穏やかな暮らしとなるよう家族と連携して取り組んでいる。余暇の活動に、利用者が希望する趣味（計算ドリル、折り紙他）や家事（洗濯物たたみ、テーブル拭き等）への取り組みを、心身の状況に配慮しながら個別の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅ケアマネジャーから情報を得たり、本人家族からの生活歴を聞き取りしている。家族、散髪に来られた理美容室の方にも馴染みの暮らし方を尋ねて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や支援経過記録に記録し、出勤時に確認し、その人らしい生活が送れるように、朝夕の申し送りやミーティング時に情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との日頃の会話や家族との面談時に得た情報等について、毎月のミーティングに担当者からそれぞれの意見を聞き尊重し計画に反映できるように努めている。	本人や家族の意向や主治医、看護師、理学療法士等の指導や助言を共有し、モニタリングやカンファレンス等で意見交換を行い利用者主体の介護計画を作成している。支援の状況は業務日誌やバイタルチェック表等に記録し、利用者や家族の状況変化に応じて、計画の見直しや修正を行って改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個人記録に気づきを記入し出勤時に職員が確認し、申し送り時に情報共有し実践や介護計画の見直し等に活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に合った柔軟な支援が行えるように努めているが、職員だけでは困難なことが多く、今後はボランティア等を取り入れ個別支援が行えるにしたい。		
29		○地域資源との協働 地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事へのお誘いをいただいていた中で、できる事に参加している。今後は住み慣れた地域行事への参加も実施できるように努めたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である法人委託医の訪問診療や協力医療機関と連携ができ、必要に応じて職員、家族の付き添いにて受診が行えている。	利用者、家族が希望する医療機関での受診を支援しているが、殆ど利用者が協力医療機関をかかりつけ医としており、定期的な訪問診療や通院により利用者及び家族の安心に繋がっている。他科受診については家族、職員が連係して同行し、かかりつけ医及び家族とは連携を密に行い、夜間や緊急時も適切な医療が受けられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>1日3回のバイタルチェック、状態観察により体調を把握し、入居者の変化については、職員同士で確認し合い、管理者へ報告。看護師に、相談し適切な対応ができるように努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入居者が入院した際は、入院先の病院の相談員等と連携をとり情報交換を行っている。また直接病院に出向き顔の見える関係作りを心がけている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に、「看取り」についての説明を行っている。介護度が重度化しても、可能な限り、本人家族の意向に沿ったサービスの提供ができるように連携を図っていく必要がある。</p>	<p>重度化や終末期のケアについては、指針を整備しており、利用開始時に本人及び家族の同意を得ている。重度化した時点で主治医や家族、関係者は話し合いを実施して、看護職員を中心に可能な限り希望に沿った支援体制で取り組んでいるが、殆んどが終末期には医療機関への入院となっている。研修を実施して、重度化や急変時のスキルアップや不安感の軽減を図る意向である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>個々の病状を把握して、急変時や事故発生時には管理者に連絡して主治医との連携を取り指示に従っている。職員の応急手当や初期対応の訓練を行っていない。今後の課題として実施できるように努めたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>職員と利用者との参加で避難訓練を2回行い法人内より応援体制を取っている。今後は地域の方々の参加協力体制がまだできていないため今後の課題として実施できるように努めたい。</p>	<p>年2回夜間を含む火災、風水害、地震等を想定した防災訓練を実施している。日頃から避難経路や通報の確認や報道による災害情報をもとに意見交換等を行って認識を高め、法人全体で協力体制を構築している。スプリンクラーや火災通報装置を設置し、懐中電灯、ラジオ等の整備や飲料水や食料品、介護用品を備蓄している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーを損ねない言葉かけを行い介護を行っている。不適切な時もある為、職員同士でも注意し合えるように努めている。	利用者の尊厳やプライバシーの確保については、計画的な研修の実施やケアの振り返り等で共通の理解に努め、トイレ誘導や居室への入室、入浴、衣服交換には、羞恥心やプライドに特に配慮する等、適切な支援の実践に取り組んでいる。ホームはプライバシーに配慮した構造となっており、台帳類も事務室の書棚で適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションをとり利用者の方が言いやすい環境を作り、衣類の選択は本人に聞き準備して自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、ゆっくりとのびのびと温もりに満ちた生活が送れる支援している。その人の意志を尊重し日々過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	髪を梳かしたり、男性は髭剃りをできる部分をしていただき、できない部分を職員で対応し、衣類を整えたり支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんで頂けるように献立も工夫し、誕生日会におやつをイベントの時は手作り弁当にして楽しんで頂いています。	栄養バランスや形態、代替品、季節感等に配慮したメニューを法人の栄養士の助言を貰いながら作成し、頂いた野菜等も活用して調理しており、利用者は歓談しながら食事し、台拭き等も自発的に行っている。正月や彼岸、敬老会等の行事食や手作りのおやつ、家族との会食、弁当持参のドライブなど食事が楽しみなものになるよう工夫し、利用者毎に摂取状況も把握している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導の下、食事はバランスよく、切り方も盛り付けにも美味しく食べて頂ける様工夫している。水分補給もお茶以外の紅茶やココア等のセレクトの機会を設けて、飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや誘導を行い、口腔ケアをして頂いて無理な方はスタッフが行っている。義歯洗浄は夕食後に実施、洗浄剤を職員で管理し清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に合わせて時間のパターンを把握し、自立できるように声掛け等支援している。訴え時には、すぐに対応して自立できるように支援している。	利用者毎の習慣や排泄パターン、サイン等を把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。身体状況に合わせた介護用品やケアの方法を介護計画に反映させて改善に努めており、リハビリパンツから布おむつになる等の成果が見られている。便秘の予防に、植物繊維の多い食材や水分の摂取、運動量等に配慮し、主治医とも連携して改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便管理を行い、回数、状態の記録、報告を受けて水分摂取促し排便が3日以上ない場合は看護師へ報告、委託医へ相談し内服薬の調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	バイタルチェックを行い、その日の体調や本人希望に応じて、午後を希望されるときには午後に入浴できるように支援している。	利用者の健康状態に配慮し、週2～3回、シャワー浴や足浴、清拭への変更も取り入れながら入浴しており、時間や好みの温度などは意向に沿って柔軟に対応し、ゆったりと安心して楽しめるように配慮している。入浴後は皮膚疾患の手当や水分の補給を支援し、入浴をためらう利用者には、時間や職員の変更、誘導や声かけ等の工夫で利用者の意向を待って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの利用者のペースで居室で休まれたり、食堂ホールで過ごされたりと、個々のペースに合わせています。夜間帯は安眠できる環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示のもとで服薬して頂き薬が変更する場合にも、業務日誌や申し送りで分かりやすく伝達して症状の変化の確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝い、ゴミ箱作り、歌を歌う、散歩や歩行運動等一人ひとりの役割を尊重して、できる楽しみ方を提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援（外食、散髪）家族に協力していただいている。家族が都合が悪い時にはスタッフで対応する支援体制を作っている。	健康状態や天候等に配慮しながら、利用者の意向に添って周辺の散歩や、ミニドライブ、地域のイベント、買い物、通院、一時帰宅、墓参等の外出を家族と協力して取り組んでいる。季節の花見などホーム全体での外出は、法人所有の車椅子対応車を活用して計画的に実施してリフレッシュを図っており、利用者の楽しみとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の管理は施設では行わず、今は本人が少ない金額でも手持ちしたい方には家族に本人管理で了承を得て本人が持っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族より電話がかかってきたときは、取り次いで電話で話をして頂いている。今回から年賀状を書いていただき家族に郵送する支援する。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は天井が高く、天窓もあり明るく、適度な広さで車いすも十分に行き来しやすい環境となっている。テーブルと椅子は床の色と調和して、畳の間との段差もなくゆったりとくつろげるソファも備えている。</p>	<p>高い天井に天窓も設置されてリビングや廊下は明るく開放感に満ちており、周辺の田畑や園庭の花木から四季が感じられ、随所に草花や手作りの作品等も飾られて和やかで落ち着いた雰囲気である。中庭や畳部分が設置され、台所からは調理の音や匂いが伝わり、空調や清掃、衛生管理も徹底して快適に過ごせる空間になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間は、気の合う利用者同士で、会話が弾んだり個々がそれぞれにゆっくり過ごせるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時点で、日常使い慣れた物や好みの物を、お持ちいただくよう説明している。本人が居心地よく過ごせるように照明、温度調整に配慮し心地よく過ごせるように努めている。</p>	<p>明るく余裕ある居室はフローリングに掃出し窓の仕様で、ベッドやエアコン、クローゼット、ナースコールが備えてある。衛生管理や整理整頓を利用者の意向を確認しながら日常的に支援している。利用者は家庭同様に落ち着いて憩える暮らしとなるよう、使い慣れた寝具や整理棚、家族写真、小物等を自由に持ち込み、また、自身の作品も飾るなど、その人らしい和やかな雰囲気スペースとなっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内はバリアフリーとなっており、1人で、車いす移動を行う場合でも廊下やトイレ内の広さも十分に確保し安全かつ自立した生活が送れるように努めている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない